

復興支援活動の記録

- ・鍼灸マッサージボランティア
- ・平成24年5月20日 宮城県牡鹿郡女川町
- ・報告者 陽だまり‘はり・きゅう’治療室 中野朋儀



この火は被災した石巻地域から木片を集め
それを種火としました
東日本大震災から一年
亡くなられた方への追悼の思い
生き残った私たちの“がんばろう”とする思い
心に残したく燈しました

2012.3.11



日和山公園から石巻湾の眺望



女川町地域福祉センター・保健センター
女川町地域医療センター(町立病院)と
2階の連絡通路でつながっている。





5月20日(日)

- ・活動場所:福祉仮設住宅
(入居者:20名)
- ・活動時間:10:00~11:30
12:30~15:00
- ・活動人数:2名
- ・施術者数:新患19名
(施設職員5名)



施設は24時間体制(2交代勤務)で
入居者の皆さんを見守っています。
入居者の個室(お家)へ訪問して
施術を行いました。



4月29日に「きぼうのかね商店街」がオープンしました。女川町浦宿浜の女川高グラウンドに木造とプレハブの仮設店舗約50店が集まりました。



希望の鐘

「希望の鐘」は、元々は JR 女川駅の駅前広場におり、駅に汽車が到着するとそれをみんなに知らせるカラクリ時計台に4つ付いていた鐘の1つです。平成23年3月11日の東日本大震災の大津波により女川駅は土台のみとなり、広場にあった時計台も全て流失しました。

しかし、奇跡的に鐘の1つが音の出る状態で発見されました。その感動的な思いから、町内の復興イベントにおいてこの鐘を「希望の鐘」と名付けて新生女川の復興のシンボルとしました。

この鐘を商店街に設置したのは、女川町の復興に「希望を与え、みんなに愛され、大事にしよう」ためです。

又、この商店街のオープンは、まさに女川町の復興の第一歩となることから、「希望の鐘」の様にたくましく、皆様に長く愛され、大事にされたいとの思いから「きぼうのかね商店街」と名称を付け、この商店街の象徴にもなっています。



マリンパル女川

マリンパル女川は、水産観光センター・水産物流通センター（通称「おさかな市場」）の2つの建物。

平成23年8月15日撮影



マリンパル女川おさかな市場
平成23年10月7日に場所を
移転してOPENしました。

平成24年5月20日撮影